



# 善正寺だより

掲示板法話

## 今日の命を頂いた 南無阿弥陀仏

## 今日も精一杯生かされた 南無阿弥陀仏

平成から令和に代わった今年もまもなく年の瀬を迎えます。

私自身、今年は随分お医者さんにお世話になりました。それ故、いよいよ老病死が迫りつつあることを身にかけて感じます。同時に、今ここに生かされているお蔭を感じます。だからより一層「後生の一大事」の解決を急がねばならぬとの蓮如上人のお言葉が切実に胸に響きます。

毎日デイサービスに通っているおばあさんが詩を書いてご住職に見せました。

「お迎えに来る車の中で南無阿弥陀仏 施設の中でも南無阿弥陀仏 風呂場でも南無阿弥陀仏 お世話して下さるスタッフの皆様にも南無阿弥陀仏 自然に出て下さる南無阿弥陀仏」という詩です。そこで「住職は、「あなた素晴らしい詩を有難う。いつでもどこでも自然にお念仏が出て下さるのが有難いね。あなたが受けているのがデイサービスなら、朝のお勤めはモーニングサービスという。夕方はお勤めはイブニングサービスだな。朝

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:059-331-1670  
fax:059-332-0733



夕の礼拝と有難いお念仏の習慣のお蔭で、デイサービスの毎日からお念仏が自然にこぼれて下さるのですね」と喜び合ったとのこと。長年のお聴聞が実りとなって、デイサービスのおばあさんの上にお念仏の花が咲いているのです。おばあさんの通う施設の中にも、きっと温かな雰囲気が出されていくでしょう。

「ゾウさん」などの童謡を作詞した詩人のまどみちおさんが九十歳を過ぎた頃気づいたという詩があります。

「朝には太陽が昇り 夕方には沈む 地球が自転公転を繰り返しながら 毎日一日の誕生があり 一日の終わりが来る これは私に死ぬ練習をしなさいと 教えてくれているのだな」という詩です。死ぬ練習という暗いイメージですが、今日一日、今日一日とお蔭さまに気づき、出会いに学びつつ心豊かな時を紡いでいるのです。

朝目覚めた時「ああ今日の命を頂いた 南無阿弥陀仏」、夜休む時「今日も私なりに精一杯生かされた 南無

### ☆行事ご案内☆

## ◇お内仏報恩講

### 12月7日(土)午前10時半(午前中)

庫裏四間を開放して音楽法要。例年35名以上が参詣。昼食用意。準備の都合上、出欠を秋勤進の時伺います。どなた様もお誘い合わせてお参り下さい。大歓迎です



### ◇秋勤進11月23日(土)午前8時より行事様、世話方様、

住職が手分けして巡回。お内仏報恩講の出欠をお聞かせ下さい

### ◇絵手紙教室 12月10日(火)10時、50回目、初心者歓迎

12月20日、21日、22日の三日間、四日市文化会館展示棟で『絵手紙がつなぐ仲間達展』開催(川崎光子先生主宰)ご覧下さい

### ◇キッズサンガ12月7日(土)4時鐘撞きは毎日5時

### ◇除夜の鐘 12月31日夜11時45分より

誰でも撞けます。ご家族お揃いでお越し下さい

### ◇元旦会 1月1日午前9時より本堂で正信偈、住職新春法話

庫裏で年始座談、新年のスタートは家族揃ってお寺から

### ◇初参式赤ちゃん、幼児募集 来年4月18日(土)1時、千円

### ◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、一年分の寺報閲覧可

毎日更新のブログ「住職6坊守のつれづれ日記」好評、開設11年4カ月で30万6千訪問、コメント、悩み相談歓迎、即返信

### ◇一緑会テレホン法話059-354-1454で3分法話聞けます

### ◇新納骨堂:後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談下さい

### ◇法事場所でお困りの方、寺にご相談下さい。本堂使用可

阿弥陀仏」とお念仏に生かされる日々を過ごしましょう。

### カンパありがとう

上田ひろ子様、村田すみ子様、山崎ツヤ子様、若松重子様、瑞穂様、澤田美智江様 様より。

### ◇「歌声喫茶」(9回目) 11月21日(木)

午後1時庫裏。第三木曜

### ◇来年4月18日(土)1時三全仏婦主催初参式の赤ちゃん・幼児を大募集。

### ☆一緑会テレホン法話。059-354-1454

454お電話を！結成36年、来年早々

18冊目の法話本発行予定。ご期待を。

### ☆ 写真アラカルト ☆ : 報恩講の光景



坊守スケッチ

鹿児島・隠れ念仏を訪ねて



十月末、私は法友のお誘いで、鹿児島隠れ念仏と知覧(特攻隊基地)を訪ねる一泊二日の旅に出ました。報恩講直前なので、私だけ二日遅れの参加。初の飛行機一人旅で不安でしたが、もし今行かなければ、一生訪れる機会を失うと思ひ決断。行く前は、何故洞窟に隠れて、その上死を覚悟してお念仏を守り続けたのか不思議でした。薩摩では、他に類のない三百年に渡る浄土真宗弾圧の歴史がありました。それは「阿弥陀如来の前では全ての生きとし生けるいのちは等しく尊い」という浄土真宗のみ教えが、薩摩藩の封建体制にはそぐわなかったからです。江戸時代中期の藩主島津義弘によって真宗が禁止され、信者の摘発が続きました。幕末期の弾圧は極みに達し、殉教者数は14万人以上。厳しい弾圧の中でも信者たちは講を作り、山深い洞穴や船上に集い、法座を開きました。厳しい拷問とは、割り木の上に座らせられ膝の上には重石が乗せられて、体が腫れ上がる程打ち付けられました。「涙石涙に濡れてもだしけり真実のいのちためさるるとき」(梅原真隆和上)の歌が鹿児島別院境内に残されています。実際に私も洞穴に入ってお経を勤めた時には、昔を思い出して涙が溢れ、物見遊山の動機を反省しました。

では何故薩摩の人達は死を恐れずに信仰を守りぬいたのでしょうか? 桜島の火山灰が降り、台風の影響も多く、恵まれない土地で生きるためには、唯一の生きる拠り所は「信仰」ではないでしょうか? 隠れ念仏の人達は、「お念仏」に最後の救いを求めたのかもしれない。

モノが溢れ豊かな時代に生きる現代ですが、幸せを感じている人は意外と少なく、あちこちで不平不満、怒りの声が聞こえてきます。信仰の自由は保証されていますが、お墓もお仏壇も要らない、合掌することも忘れがちな現代人の何と多いことでしょうか? 恵まれ過ぎた時代の私達が、今こそ原点に戻って、浄土真宗のみ教えに会い、それに基づいた生き方に目覚める時だと気付かせて頂きました。

寄稿

素人の秋展示会輝きて 釋妙水

大根汁お代わり繁盛味噌の味 団栗やおつむ寄せ合う仲良しさん 大根やバケツに五五百円なり 登校の足取り重しそぞろ寒 釋清風 冬に入る山の猫鳴き擦り寄れり 報恩講汁湯気立つお膳和氣満々 冬晴れや誕生祝いの顔揃ふ

☆若院夫婦の「育自な日記」60

今年も報恩講を無事に終えることができ、「ご尽力いただいた皆様」に感謝申し上げます。今年も土曜、日曜の日に、我が家の子ども達もフル出場朝からバタバタと駆け回りあちこち賑やかしているのは長男(7)です。賑やかして下さっている男性陣の真ん中に座って一緒に菓子を食べ、法中の控室に忍び込んでは何やらココソコ。一方、長女(5)は恥ずかしがり屋ですが、顔なじみの方にはペラペラと上手にお喋りします。私にべったりだった頃を思えば、二人の成長を感じずにはおれません。

一日目のお非事の際、私の手を握った方がいました。かなり高齢の方で、しばらく病気だったようですが、いつも穏やかなお顔でお参り下さいます。食事後に立ち上がる際、差し出した私の手を支えにされました。

二日目にも私の手を握って下さった方がいます。ご講師の藤大慶先生です。お帰りの車に乗り込む前に、「ありがとう」と子ども達と私と握手を下さいました。

誰かに頼ってもらえた喜びと、ご縁の糸が更に太くなったような感覚に今まで感じなかったやりのを得た今年の報恩講でした。



ホットニュース

◇11月23日御午前8時より行事さん、総代さん、住職が手分けして「秋勧進」のお願いに巡回します。その時来年度カレンダー、年回表、寺報を配布します。よろしくご協力下さい。

◇11月2日の報恩講お非時は大盛況。特に3升の赤飯は瞬間に売り切れ。新米ご飯3升も美味しいと大好評。全てT市のAさんの御奉納です。おかずは9つに仕切った懐石風容器。バラエティ豊富な食材で持ち帰りに便利。珍しさもあって大好評。大根味噌汁は出汁に一工夫。毎年皆様のお声を聞いて美味しく召し上がって頂くように少しずつ改革していきます。

◇百五銀行から本堂に移された「第9回善正寺門徒展」の作品は多彩な顔ぶれでかつてない多くの作品が集まりました。人形やアップリケ、絵手紙に多くの注目が集まりました。

◇12月7日(土)午前10時半お内仏報恩講。夜間の外出が苦手な人が多いので、午前の開催に変更。お弁当を用意します。奮ってご参加下さい。

★ 編集子より ★

「善正寺だより」三百十二号をお届けします。◇平成から令和に代替わりのこの一年、台風、豪雨など自然災害の多い年だったが、荒んだ事件、事故も多発。◇幼少時の虐待や育児放棄が狂暴化の遠因になると。和顔愛語、少欲知足の生活習慣こそ肝要と思う次第。

令和元年の喪中葉書が届く頃です。働き盛りの子供に先立たれた親からの喪中葉書には胸を突かれます。先立つ子供も高齢の親を残して旅立つ無念さ。死は齡の頃ではありませんが、いざ現実となると受け入れ難いものです。

10月末に鹿児島島隠れ念仏と知覧(特攻隊)への旅に出ました。戦争末期の沖縄戦で全国から若い兵士がかき集められ、その結果、知覧の特攻隊戦死者数は千人以上。平成13年に上映された「ホテル」(高倉健主演)には出撃前夜「ホテル」になって還ってくる」という場面が印象的でした。私は特攻隊と同じ富屋旅館に宿泊。女将の鳥浜トメさんは、親身に世話をし、母親のように慕われていました。私達も出撃兵と同じ食事を頂きました。おにぎり二個、蒸した芋、目玉し一匹、さつま揚げ、梅干し、味噌汁。

質素な食事です。が、当時としては最高の馳走。しかし箸がありません。二度と食べられない最期の食事には箸は不要でした。遺書は故郷に残した両親や妻子宛て宛てたものが殆んど。家族への愛と感謝の言葉が切々と書かれています。死を目前にした人間の真実の心情が吐露され、謙虚さと尊さが滲み出ています。それに対して現代の私達は「終活」という名の下で、いとも簡単に自分の生きた証を捨て去り、後世に伝える努力を怠る。反省しました。安心して平和に暮らすのはご先祖のおかげです。恒例のお内仏報恩講を12月7日(土)午前十時半お勤めします。お参り下さい。

令和元年十二月 合掌 善正寺坊守 拝